

所 陵

創刊号

関西大学考古学等資料室彙報

昭和55年5月31日発行



〔大学院学舎4階〕

目次

創刊によせて “もの”を見る楽しみ	2
考古学資料室概要	3
神田孝平翁について	4
陸奥国亀ヶ岡出土「土偶」資料紹介	5
資料調査報告	6
関西大学博物館(仮称)設立要望書趣旨	8
ニュース	9
関西大学考古学等資料室規程	10
資料室管理運営委員会委員	11
編集後記	12

関西大学考古学等資料室

〒564 大阪府吹田市山手町3の3の35 (06-388-1121)

老人の道楽として“盆栽いじり”とともに挙げられるのが“骨董いじり”である。定年退職した年寄りが、古道具屋めぐりをする光景が連想される。そうした骨董書画の名品を集めたところが博物館だとされている。“あいつは博物館行きだ”という言葉は、頭の古い人をくさすのによく使われる。博物館とは老人の行くところだというのが世間の通念といえよう。

史学や考古学さえも、年寄りじみた学問だとされていた。私のある友人が、大学の国史料へ進学した時、彼の姉さんが友人から“弟さんは、大学の何科に入られたのですか”と聞かれ“国史料に入りました”と答えたら“まあ、お若いのに、お可哀そうに”といわれたという。史学や考古学は骨董いじりの学問と考えられていたのだ。考古学が青少年に人気のある学問になったのは、戦後のことかもしれない。もっとも、浜田青陵、清野謙次、梅原末治、末永雅雄などの大先生が、学界に名を知られたのは、青少年時代だ。

それはともあれ、地中から二千年も三千年も昔の奇妙な形のを掘り出したり、古寺、古社の倉の中で、五百年も八百年も昔の、有名な人の書いた筆蹟を発見したり、暗い寺の本堂の隅から千年も前の仏像を発見したりする喜びは、経験のない人には分らぬ、胸おどるものである。それは、古道具屋や古書店で、いわゆる掘り出しものといわれるような名品を見つけ出し、店主の無知に乗じて、安い値で、何食わぬ顔で買い取るというのも同様な喜びであろう。まあ、大抵は、名品には、それ相当の高値がついていて、金持のコレクターは、金に糸目をつけず買い取り、自邸にならべて他人に自慢するのを楽しみとしている。

こういう古美術品を集める道楽は、いつ頃はじまったのだろうか。西洋では、ルネッサンスの頃には、富豪が盛んにコレクションを始めていたようだ。ギリシャ・ローマの古典芸術の復興とともに、そういう時代のものを集めていたようだ。もちろん、その時代の現代的作家であるレオナルドやミケランジェロ、ラファエロなどの作品の蒐集も

やっていた。

中国では、すでに唐時代から古書、古画の蒐集が盛んで、宴会の余興娛樂には琴棋書画といわれるように、音楽、歌舞の演奏、碁や双六の勝負（むろん賭博だ）詩文を作り、その場で揮毫したり、歌うたりする他に、所蔵の書画骨董の名品をならべて鑑賞したりした。

宋時代になると殷周から漢六朝時代の古銅器の精品を集めることが流行し、その図録の刊行も盛んとなった。それ以後、元、明、清代には、ますます古美術熱は高まり、皇帝はじめ、大官連が名品を鑑賞すると、名画の前後、左右に鑑賞の辞や鑑賞の印版を押捺するようになり、その字や文章、詩や印章がまた芸術的だということで、鑑賞の対象になったのである。

日本では、奈良時代に聖武天皇の集めた名品類が正倉院御物として、今日残存していることは、今さらいうまでもない。平安貴族の間でも、中国の宋との交易により、相当名品を輸入し、集める風潮があったらしい。

しかし、なんといっても、東山時代に足利義政が中世最大のコレクターであったようだ。『右台観左右帳記』は彼のコレクションの目録である。それ以後、茶の湯の盛行につれて、大名や富豪の間に茶器をはじめ、床の間にかける書画の名品、花器などの蒐集は非常に盛んとなり近世にも継続した。

こうしたコレクションを博物館として、一般市民に展示する点では、西欧が遙かに進んでいた。オックスフォード大学のアシュモLEAN・ミュージアムの一階から二階に昇る階段の踊り場の壁に大理石のパネルがあり、多くの寄贈者の名前が金文字で彫りこんであるが、古いものは17世紀にさかのぼる。すなわち 300年以前から大学博物館があったのだ。もはや紙数もなくなった。わが関大の資料室が遅ればせながら、本山コレクションを根幹に他のコレクションも将来獲得して、一段と発展することをのぞみたい。なお「玩物喪志」ということについて、書きたいと思ったが、別の機会にゆずる。



関西大学風景

陳列室内部

授業風景

作業風景

考古学資料室概要

副委員長 網 干 善 教

関西大学には多量の考古学、民俗学的資料を有する。これらの資料は明治の考古遺物の蒐集家として知られる故神田孝平氏の資料を元毎日新聞社長であった故^{もとやま}本山彦一氏に継承され、これに本山氏が大阪府国府遺跡などの発掘品を加えて、堺市に富民協会農業博物館を建設され収蔵されていた。本山氏の歿後、末永雅雄先生の御尽力と関西大学当局の財政上の特別の配慮と本山家の御好意によって、関西大学で所蔵することとなった。これらの資料は重要文化財指定品をふくむ学術的価値のある資料であることはいうまでもない。もちろん一般的傾向として蒐集家による資料の収蔵は、関心の偏重によって必ずしもすべての時代、領域にわたっていない傾向がある。例えば瓦に興味の中心のあった蒐集家にはそれに関する資料が多いし陶器や中国銅器といった領域に重点を置いた蒐集品もある。旧本山コレクションは主として考古学的遺物の蒐集であって、特に東北、関東地方出土の縄文式土器や古墳出土遺物にすぐれたものがある。

本学に受けついで旧本山コレクションは当初末永先生によって図書館3階の2部屋に整理、陳列されていたが、何分莫大な量の収蔵品を陳列するには場所が狭くその一部は図書館の書庫や、地下倉庫に収蔵されていた。

大学における学術研究資料が学問の府としての大学という機構のなかで、いわば仮住いの的に冷遇されていることは、大学そのものの存在とその機能にもかかわる問題であるという意見もあり、可急的速やかに博物館を設置しなければという積極的な意見も述べられた。しかし独立の充備した博物館を建設することは容易でないという現実があ

った。そこで、大学院学舎の改築を機会に、とりあえず以前よりも少しでもよい方向で対処することが計画され、竣工と同時に大学院学舎4階の現在の資料室へ移転することになった。ところがこの施設も面積的に狭隘であり、陳列すること

のできない資料がそのままになっている。

本来大学における博物館は、デパートの展覧会のように、ただ珍しい資料を展示するのは意味が異なる。大

学に収蔵する資料は、あくまでも、研究者や学生ら学術研究の教材として収蔵することが第一の目的である。すなわち図書館が収蔵する書籍と同じである。傾向として何大学は蔵書何十万冊があるといったことで、その大学の評価の一つの基準としていることがある。確かに研究、教育のために一冊でも多くの図書を備えることが必要である。

しかし美術、民俗、考古学という分野においては図書と共にそれらの学問領域における実際の資料が必要である。隣国の韓国では大学設置基準に図書館と博物館の設置が必要条件になっており、どの大学にも立派な博物館が設置されている。そういう意味では日本は後進的であるといわれている。日本でも大学博物館学講座協議会などからそうした要望が出されているがまだ実現されていないというのが現状である。

もう一つの問題は、仮に大学で博物館を建設しようとしても、収蔵品のない場合が多いという現実がある。

そうした事情のなかにあって、関西大学は学界からも高く評価されるすぐれた資料が所蔵されている。それにもかかわらず、それを十分に生かすことができないということはまた問題というべきである。

関西大学が名実共に学術の府として評価され、その目的を果す意味においても博物館の建設の一日も早いことを願望する。



松陰 本山彦一翁

増補 本山彦一翁の考古学資料
不問電報待人成政示諭書
益堅毛金杜畫人筆の樂元
今迄の我正義志也
昭和十一年
本山彦一

本山翁筆

かん だ たかひら
神田孝平翁について (神田コレクションと考古学について)

角 田 芳 昭

本学に所蔵する考古資料の一部に数千点の石器がある。この石器は幕末の蘭学者、経済学者であり、明治の官僚政治家ともなった『神田孝平』翁の蒐集になるもので、それが一括して故本山彦一翁（元毎日新聞社長）に移り、本山コレクションとして本学が購入したものである。

神田孝平翁(1830～~~1878~~年)については多く知られていないが、美濃に生れ、経済学方面の著書が多く、幕末より明治初期にかけて、福沢諭吉と並び称される人物であるが、彼には福沢と並ぶだけの啓蒙書がなかった為、その人と業績についての研究が極めて少ない。経済学関係著書数冊、官僚となつては兵庫県令として、多大の治績を残し、明六社創立にも参加、また、元老院議員、文部少輔、貴族院議員に勅選、功により明治31年7月華族に列し男爵を授けられている。晩年には、考古趣味も加わり、巾広い文化人、教養人として後進の指導、助言を行なっている。明治17年、日本で最初の英文による『日本大古石器考』を著わし、外人を驚歎させている。また、同年10月坪井正五郎等10人によって人類学会が設けられたが、これについても諸々と助力したものと思われ背後に翁の力が大きく働いていたものと推察される。20年要請され、初代人類学会会長に就任した。そして明治31年歿するまで考古学会等のスポンサーとして活躍した。ここで神田孝平の考古趣味について記してみたい。

翁が考古学及び古代遺物にいつ頃から興味を持つに至ったかは定かではないが、明治4年横山由清増補の『尚古図録』に先史及原史時代遺物として彼の所蔵品が見える。(写真5ページ参照)。陸奥国亀ヶ岡土中所獲土偶人頭、神田孟恪蔵として「土偶人頭」の表面と側面のスケッチが描かれており、考古学史上における土偶側面をかいた最初のものといわれている。孟恪とは翁の幼名である明治4年といえは翁42才の時であり、この年11月兵庫県令に任命されているので、この頃には相当の石器、土器などに蒐集していたものと思われる。

また、この他に同書に長井十足蔵の石刀が描かれているが、後に翁の所蔵となっている。幕末に多くの石器図譜類が刊行された

が、翁はこれらの書を参考に所在を確認しゆづり受けたものも多数あると思われる。



神田孝平翁

明治10年エドワード・S・モースにより大森貝塚が発掘され、ここに学問とし、科学としての考古学が生まれた、学史上忘れてはならない年であるが、この遺物を教育博物館で天覧に供することになり、時の文部少輔神田孝平が文部大輔田中不二麿に代わり上奏文と起草している。

明治12年モースに指導を受けた佐々木、飯島によって常陸安中の貝塚を発掘して報告した『陸平貝塚編』は日本人による最初の学術報告書として意義があり、ヘンリー・シーボルトの『考古説略』『日本考古学』、黒川真頼『上代石器考』など次々と発行された。翁もこの次々と発行される新知識の報告書や書物に多に啓発されたに違いない。

明治17年神田孝平によるわが国初の英文による考古学図譜が刊行された。『日本大古石器考』である。英文は『Notes On Ancient Stone Implements of Japan』であり、翌々年『日本大古石器考』として邦文のものが発行された。この著には石鏃、石斧、石棒、青龍刀石器、独鈷石、御物石器など縄文遺物の他鍬形石、車輪石、石製模造品など古墳時代遺物も収められており合計271点の図版がある。

その緒言に「我ノ此書ヲ撰述スルノ主意ハ我邦ノ古事ヲ講究セントスル外邦の諸学士ニ講究ノ材料ヲ供シ而シテ其講究ノ結果ヲ聞カント欲スルニ在リ」としている。この貴重なる考古資料がそっくり本学考古資料として所蔵されており、学史的にも著名である。

これら石器資料が生きた指導教材となっていると同時に神田孝平翁の偉大さを改めて認識した次第である。



明治十九年
邦文発行のもの

(土偶の側面を書いていることで貴重な資料)

ここに紹介する資料は資料室において長年出土地不詳として陳列されていたものであるが、その後の研究により青森県亀ヶ岡遺跡より出土していることが判明したので、これについて若干記してみたい。清野謙次著『日本考古学・人類学史』上巻において、この資料を紹介しており、それによると、明治4年改訂『尚古図録』(横山由清著)第18図に収載されており、その中に根岸武香蔵の「陸奥津軽亀ヶ岡土偶人」と「神田孟格蔵亀ヶ岡土中所獲土偶人頭」とあり、この土偶の側面も描かれており、進歩の後を物語る描写である。と出ており、この資料はまた土偶の側面図が描かれた最初のもので歴史的意義が深い。これにより青森県亀ヶ岡遺跡より出土していることが判明したのである。

現高 7.1cm, 顔面幅 8.4cm, 顔は三角形の山形状をしており、目を蔽った遮光器土偶と呼ばれるものに近く、江坂氏の分類による縄文晩期第4類土偶に入るもので、眼鏡をかけたような大きな両目も再び小さくなっており、頭部と顔の境に刺突文の陸起帯を作り、頭部と顔との区別をし、かなり写実的に表現しており、頭部欠損のため結髪状態は不明である。大洞C₂式土器から大洞A式土器に伴出して出土する土偶である。

土偶は縄文時代全時期を通じてつくられており全体に象徴的な表現と女性像であることが特徴である。大半は乳房を大きく臀部を後方へ大きくふくらませている。この用途については玩具説、呪術的宗教説、護符説など様々にあるが、いずれも決定しがたく定説は現在のところない。遺跡から発見される土偶は、その大部分が破損して廃棄された状態であることから、人々が故意に土偶を傷つけ、廃棄したものと思われる。また、この土偶の各部の文様から当時の服装をある程度復元できることも可能とされる。早期、前期の土偶は胴部から頭部を突き出させた程度の簡単なつくり

であり、眼鼻、口など明確に分離していない。中期になると眉上弓の上に頭髪を示すかと思われる沈線文が施されている。そして後期

・晩期に入ると、当時の結



明治4年発行『尚古図録』より

髪の状態を模したと思われるものが多く見られる。また、頭部に帽子をかぶったような形のものもあり、刺青ではないかと推察され、体部の形態、文様などは衣服をあらわしているとされている。この土偶においても、眼鏡をかけた状態であり、下部は欠損しているが当時多くの土偶を見るに体部全体に文様をつけているが、これも葬送儀礼の時にのみ着用した衣着の名残りかとも思われる。

土偶の出土遺跡も中期までは東日本中心で西日本からの出土例はなく、後期になると全国的な広がりを見せ、その形態も筒形土偶、ハート形土偶、山形土偶、みみずく土偶と呼ばれる形態が知られる。晩期になると東北地方を中心とした遮光器土偶の発達を見る。本資料室にも30数点の土偶資料があり、中でも茨城県椎塚貝塚出土の土偶10数点が一括してあり整理中である。

香炉形土器は東京人類学会雑誌4巻42号に『後台欠損セル者ナリ、出所ハ陸奥国津軽ノ瓶ヶ岡ナリ、[※]蓑虫老人自ラ地ヲ掘リ之ヲ獲テ余ニ贈レリ』と神田翁が紹介している。[※]蓑虫老人とは、本名を土岐源吾といい、美濃の人で幕末より明治へかけて在世し、約50年間全国を漫遊し、古物蒐集や、名所旧跡をスケッチした放浪画家であり、明治33年名古屋の長母寺にて没した。彼の蒐集による石器・土器類も多少は神田翁の所蔵品に帰したといわれている。(角田芳昭)



亀ヶ岡遺跡出土

昭和54年度資料室調査報告

昭和54年度は東北地方縄文遺跡の調査を行った。主に青森・岩手両県について「旧本山コレクション」の出土資料の現地踏査であり多大の成果を上げた。

本学に所蔵する資料について毎年度出土遺跡の調査を行なって来たが、昭和54年度は東北地方縄文遺跡と大森貝塚碑について調査を行なった。主に青森・岩手両県における『旧本山コレクション』関係の出土資料の現地踏査である。

是川遺跡（青森県）

この遺跡は古来より有名で、八戸市是川にあり一王寺、掘田、中居の三遺跡の総称である。中でも中居遺跡は縄文晩期の遺跡として知られ、大正9年（1920）以降の泉山岩次郎氏の晩期土器の出現を見、著名となった。また、特殊泥炭層から出土した各種の木製品や土器、石器は有名で、約6千点が一括して現在八戸市立歴史民俗資料館へ所蔵されており、学術的にも非常に貴重な資料である。一王寺遺跡は縄文前期より中期の土器や骨角器が出土し、一部に貝塚が形成され、一王寺円筒土器として著名である。また、掘田遺跡は中居遺跡の北東に隣接し、縄文中期の堅穴住居跡が発見されている。この是川遺跡より出土した資料の中に本学所蔵で多くの泥炭層遺物がある。クルミ、ナラ、トチなどの実や、樹木、アスファルトの附着した土器片などである。これらの資料はかつて本山彦一翁がこの是川遺跡の湮滅を虞れ、この地に『是川遺跡』の碑を建立し、揮毫したことに謝し、泉山翁より送られしものという。碑の下に次の如く銅板にして喜田貞吉の撰がある。「奥羽北部ノ地、由来石器時代遺跡ニ富ミ其土器ニ現レタル工芸ノ進歩実ニ世界ニ冠タルモノアリ、就中此是川遺跡ハ中居一王寺掘田相接近シテ各系統ヲ異

ニスル遺物ヲ蔵シ特ニ中居泉山氏邸内ヨリハ優秀ナル多数ノ植物性遺物ヲ発掘シテ従来知らレザリシ。当時ノ文化ノ一面ヲ学界ニ紹介シ又掘田ノ遺跡ヨリハ古銭ヲ発見シテ是ガ絶対年代ヲ推定スルノ好資料ヲ提供セリ。八戸郷土研究会其址ノ湮滅



本山彦一翁揮毫（昭和七年）

ヲ虞レ本山翁ノ揮毫ト揖資トヲ請ヒ碑ヲ樹テテ之ヲ後世ニ伝ヘントス。昭和七年秋」とある。この地の泥炭層より出土した遺物は貴重な学術資料となるので、放射性炭素測定法などにより年代測定を行ない、是川遺跡の確かな年代を明らかにしていきたい。

更木町臥牛遺跡（岩手県）

本学の考古資料の中に岩手県更木出土とした土器、土偶、土版など20数点がある。この度の調査でこの資料は北上市更木町臥牛遺跡より出土したものであることが判明した。

この臥牛遺跡は縄文時代後、晩期の遺跡であり猿ヶ石川左岸台地に立地し、加曽利B₂式、B₃式に並行する土器等と、大洞B式からA式までの土器が出土しているが、C₂式が主体をなしており、浅鉢、注口、壺形土器などが多く出土している。北上市史にも臥牛遺跡として発表されており、これによると、大正末年に猿ヶ石川よりの用水路工事が行なわれた際、多数の土器、石器類が出土し一部は本山考古室へ入り現在関西大学に保管されている、とあり本山翁の蒐集であることが判明した。土器21点、土偶1点、土版1点、土笛1点の資料を蔵し、晩期の大洞C式、C₂式が大部分をしめ、ほとんど完器で、資料価値も高いので、整理完了次第紹介したい。

また、この他に東北地方の縄文資料を多く所蔵しているので、写真図版により次号から紹介していくことにする。



臥牛遺跡（岩手県北上市更木町）

日本考古学史上に一頁を画した「大森貝塚」碑を調査した。

大森貝塚碑（東京都品川区大井6丁目）

明治10年（1877年）9月16日東京大学教師米人 E. S. モースは助手松村任三と松浦佐用彦、佐々木忠次郎の2生徒を伴ない都下大森村の貝塚を調査し、同月29日より発掘に着手した。これが大森貝塚の発掘であり、日本考古学の出発点としている。まさに記念すべき年である。本山彦一翁はこの記念すべき貝塚が、その後荒廃しているのを見また、これが湮滅するのを恐れ、記念碑建設を大山柏、有坂紹蔵、杉山寿栄男の各氏に委託され、本山翁の揮毫により、昭和4年11月3日除幕式が行なわれた。

碑面に次の如く氏名等を彫り込んでいる。

大 森 貝 塚 （大書右書）			
昭和四年五月二十六日 起工（右書）			
発起人	本 山 彦 一（以下縦書）		
賛成人	理 学 士 岩川友太郎	理学博士	佐々木忠次郎
	理学博士 石川千代松	法 学 士	宮岡 恒次郎
	公 爵 大 山 柏		杉山 寿栄男
	医学博士 小金井良精		本山彦一 書
	工学博士 有坂 紹蔵		

そして碑の上部銅板に英文を彫している

The Site of the Omori Shell Mounds
discovered by

Professor Edward S. Morse,

また、この銅板の上に発掘土器を形どった壺を置いている。この碑が建てられた後、昭和5年4月、佐々木忠次郎博士により『大森貝墟』（大田区）と縦書にした碑が建立され、現在は二ヶ所ある。

以上は川遺跡、大森貝塚跡は何れも本山彦一翁の揮毫により遺跡の消滅を防ぎ得たことは日本考古学史上において忘れることのできない出来事であり永く記録にとどめておきたいものである。



また、当時大森貝塚の発掘遺物を天覧に供されたことがあるが、この時の上奏文は時の文部少輔神田孝平が文部大輔田中不二麿の代理として起草したものであり、考古趣味も専門家に近い学識を有していた翁に、モースは



本山彦一翁揮毫（昭和四年）

大森貝塚の報告書作成に関して、遺物の性質を正しくとらえるため、日本人研究者の意見も聞いたとされているが孝平翁などその最右翼の人であったと思われる。この神田孝平翁蒐集の石器類が本山翁のコレクションとなり、本学に所蔵されていることはまことに奇縁というほかない。

本山彦一翁は明治・大正・昭和の三代を毎日新聞社の社長として、今日の大毎日の基礎を築いた人物であり、神田孝平が明治期の考古学のスポンサーならば、本山翁はまさしく大正・昭和の考古学のスポンサーであり、翁自身も河内国国府遺跡の発掘、長門長府における和銅開帳の鑄銭址遺跡の発掘、有田近郊古陶窯跡の発掘をしており、これらは学界に大きく寄与している。特に河内国府遺跡における石製耳飾は『玦状耳飾』と実証された発掘として長く学史に記されている著名な発見である。

神田、本山翁の考古学趣味が、わが国における考古学発展の一端をになっているといっても過言ではないと思う。

（網干，角田）

肝 陵 の 由 来

創刊の彙報に横田健一先生から「肝陵」という題をいただいた。本学の学生が愛唱する逍遙歌の一節に「名も千陵の丈夫が」とあり、大学の所在地「千里山」に因んだものである。肝は数字であると共に「ミチ」「墓道」という意味もある。「陵」は「ヲカ」「ツカ」「ミササギ」であり、共に考古学に関連する。資料室の彙報にふさわしい表題である。

関西大学博物館(仮称)設立要望書趣旨

次の趣旨をもって5月15日学長宛要望書を提出した。

本学「考古学等資料室」が昭和29年図書館3階へ開設されて以来27年、資料収集に鋭意努力した結果、現在「旧本山コレクション」を主軸に、考古、歴史、民俗及び自然科学等資料が一万数千点に達し、質量ともに学術研究の貴重な資料として学界から高く評価されております。この保有する貴重な考古資料の中には、文化財保護法による『重要文化財』16点が含まれており、財産的価値も非常に高く、貴重な文化財です。

昭和49年大学院学舎4階へ考古学等資料室が設けられ、全ての資料を図書館より移管し、不完全ながらも、管理運営委員会の下に資料の保存、保管がなされています。この資料室は陳列室、収蔵庫、事務室、作業研究室など計620平方メートルが与えられておりますが、資料収集状態と見較べた場合、この面積では、はなはだ狭く、重要資料を展示し、収蔵することは不可能であり、資料の有効適切な活用がなされておられません。また、保存、管理面で万全が機されておらず、関係識者に改善するよう指摘されております。これを改善するためには是非とも独立した博物館施設が必要で

す。

他大学の実状を見ますと、著名な大学には、それぞれの特色をもつ附属博物館施設を有し、高水準の教育、研究に寄与すると同時に、社会教育にも寄与し、多大の実績を上げております。学問における博物館の果たす役割は非常に重要であり、歴史、文化、社会教育面の研究には欠くことのできない施設であります。「文献資料」の図書館と、「実物資料」の博物館との両施設が相整ってこそ、真の学術研究の府であり、総合大学といえるのであります。この重要な施設である博物館設置は大学の使命でもあり、現在収集されている資料を有効適切に管理運営するためにも、博物館施設は必須条件です。

本学に「博物館学課程」が開講されて以来20年多大の優秀な人材を輩出し、社会教育や文化財行政に実績を上げていることは、ご高承のとおりですが、本学に博物館が設置されますと、他施設などで行なっている実習が本学で全て行なえることになり、実習効果も一段と上り、学生の質的向上

へとつながるものと推察されます。

学校教育法第52条に「大学は学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授、研究し、知的、道德的及び応用的能力を展開させることを目的とする」とあり「個性ゆたかな文化の創造性をめざす教育を徹底しなければならない」ともいっており、博物館設置はかかる大学の目的に直接的に貢献するものであります。現在の大学教育においては「物(もの)との対話」が意外に欠けており、学生の中には、空疎な観念だけが先走り、物に即した堅実な思想にかけている傾向が強く感じられます。博物館が「実物教育」たる施設として、大学関係者及び一般公衆が親しく立寄り幅広い教養や、リクリエーション及び研究の場となるならば、博物館のもつ意義は絶大なる価値があると考えられます。考古学資料室の現状をみると、もはや飽和状態にあり、将来の資料収集、展示、実習授業等において重大な支障を来すことは明白であります。そこで以上の窮状を打開するために『関西大学博物館(仮称)』の建設を要望するものであります。建築規模としては事務、展示、サービス、研究部門等の合計6,000平方メートル程度のもので、モデルとして東京国立博物館の「表慶館」を参考とし、建築上の構造を考慮に入れることも必要と思われます。また、これに伴う管理運営上の人的要素として、学芸員の資格を有する専門職員を昭和56年度より毎年1名採用していただき、開館時には5～6名のスタッフで発足する考えであります。

本学が創立100周年の慶事を迎え、まさに飛躍的に発展しようとしていつあるとき、ここに記念事業の一環として「博物館」の建設を実現することは、極めて大きな意義を有するものと考えます。

「博物館」の設置は学内外関係者の積年の悲願であり、大学のシンボルとして一日も早く実現してほしいとの声がしばしば聞かれており、早急に実現されんことをここに希望いたします。もし早急に実現ができない場合は、とりあえず、新図書館完成の暁には現在の図書館本館部分を改装し、博物館として設立されんことを重ねてここに強く要望するものであります。

以上



巧芸画資料貸出

次の巧芸画（大塚巧芸社製）を所蔵しておりますので学内で美学・美術及びゼミ等講義資料として必要な場合は使用下さい。

鳥獸戯画卷	鳥羽僧正	平安時代
冬景山水軸	雪舟等楊	室町時代
四睡図	黙庵	室町時代
白雲紅樹	池大雅	江戸時代
時雨傘	与謝蕪村	江戸時代
東雲篩雪	浦上玉堂	江戸時代
松下行路	橋本雅邦	明治時代
林和清	菱田春草	明治時代
学士耕雨	富岡鉄斎	大正時代
大原の春	堂本印象	現代
嵐峽	富田溪仙	現代
松上の鶴	平福百穂	現代
ほととぎす	鏑木清方	現代
秋紅帰漁	川合玉堂	現代
三保霊峰	横山大観	現代
松竹梅	小林古徑	現代
春暖	伊東深水	現代

重要文化財指定資料

本学の重要文化財指定資料は次のとおりである。



石枕	(伝天理市柳本町渋谷出土)	1点
玦状耳飾	(藤井寺市国府出土)	6点
銅鏝	()	5点
籠形土器	()	1点
高杯形土器	()	1点
鉢形土器	()	1点
石製丸玉	()	1点

他に昭和20年以前指定の重要美術品を次にあげる。

平形銅剣	1	愛媛県新居郡荻生村出土
袈裟褌文銅鐸	2	伝寝屋川市四条畷出土
鶏形埴輪頭部	1	愛媛県喜多郡南久米村出土
鹿角製刀装具	3	福島県糸島郡雷山古墳出土
銅製壺・鐙	1	関東地方出土
石人頭部	1	福岡県八女市吉田村出土
石鞆上半部	1	福岡県八女市吉田村出土
鑄銭資料	一括	山口県豊浦郡長府町出土

NEWS

新収蔵資料

昭和54年度予算において『きぬがさ形埴輪』復元模型1点を購入した。この資料の実物は関東大震災において焼失したのであるが、幸いなことに実測図が残っており、末永雅雄先生が宮内庁に複製許可を依頼され、全国で三基京都科学標本会社が復元したものである。

縦150センチ、横140センチメートルと大きな埴輪で、4世紀の資料として貴重であり、今後の教育研究に非常に役立つものと思われる。

この埴輪は奈良県佐紀町にある日葉酢媛陵（垂仁天皇皇后）より出土したもので、主軸206メートルの前方後円墳で、後円中央部からこの「蓋形埴輪」が発見された。蓋の上半、鰭や稜飾りに幾何学文様である直弧文が施されています。この文様の起源や意味については諸々の学説があり現在のところ定説は出ていない。

また埴輪の起源についても諸説があり、定説はないが、葬送儀礼に関する説が有力と思われる。



NEWS

博物館学課程案内

昭和26年に「博物館法」が制定された。同法によると、博物館（美術館、資料館、宝物館、水族館、動物園などを含む）には、その目的を達成するために必要な学芸員その他の職員をおかねばならないとしている。学芸員の任務は博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関連する事業について専門的事項をつかさどるとあり、学芸員の資格条件については厳重に規定しており、世間一般では相当水準の高い専門職員である。本学では、その要請にもとづき、将来博物館学芸員の資格を修得させるために昭和36年この課程が開設された。そして過去に300余名が資格を取得し、このうち約2割の者が社会教育関係に就職している。

本資料室ではこの『博物館学課程』に関する業務を行っており、実習の計画立案、見学折衝、引率など学生指導や、陳列室において実習を行なっている。また、「博物館学課程履修要綱」など参考書類を備付し、学生の利用に供している。



関西大学考古学等資料室規程

(目 的)

第1条 関西大学考古学等資料室（以下「資料室」という。）は、考古学、歴史学及び民俗学等の資料及び図書等（以下「資料等」という。）の収集、保管、整理、展示及び調査研究活動を行い、大学における教育・研究の発展のために寄与することを目的とする。

(事 業)

第2条 資料室は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 資料等の収集、保管及び整理に関すること。
- (2) 資料等の展示及び閲覧に関すること。
- (3) 調査研究活動に関すること。
- (4) 調査研究の発表及び出版刊行に関すること。
- (5) その他必要な事項

2 資料室には、前項の事業を行うために、必要な職員を置くことができる。

(資料室管理運営委員会)

第3条 資料室に、資料等の適正な管理運営をはかるために、資料室管理運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組 織)

第4条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 教学部長、文学部長、大学院部長
- (2) 大学事務局長、文学部事務長、大学院事務長
- (3) 考古学関係、歴史学関係及び民俗学関係担当の専任教育職員のうちから5名
- (4) 各学部から選出された専任教育職員各1名
- (5) 学識経験者若干名

2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員の互選により、副委員長は、委員長の指名によって決める。

3 委員は、学長の推薦により理事会が委嘱する。

4 第1項第3号、第4号及び第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の任務)

第5条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 資料等の収集、保全及び整理に関すること。
- (2) 資料室の管理運営に関すること。
- (3) 調査研究活動に関すること。
- (4) その他必要な事項。

(会議の招集)

第6条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、議長

となる。

(委員以外の会議出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め意見を聞くことができる。

(展示資料等の閲覧)

第8条 資料室は、展示資料等の学内閲覧日を次のとおり設ける。

(1) 閲覧日 毎月1回 第3土曜日（ただし、1月、2月、7月及び8月は除く。）

(2) 時 間 12時から16時まで

(3) 第1号に定める日が休業日にあたるときは、第4土曜日とする。

(撮影等の許可)

第9条 資料等の撮影、模写及び模造等をしようとする者は、撮影等許可申請書（第1号様式）を委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

2 委員長は、前項の規定による撮影等許可申請書の提出があったときは、審査の上これを適当と認めた場合には、撮影等許可書（第2号様式）を交付する。ただし、重要文化財及びこれに準ずる資料については、別に定める資料等利用基準にもとづき、委員会を開いて決定しなければならない。

3 委員会は、管理上支障がある場合には、前項の許可を取消することができる。

(資料等の学外貸出し)

第10条 資料等の学外貸出しを受けようとする者は、学外貸出許可申請書（第3号様式）を委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

2 委員長は、前項の規定による学外貸出許可申請書の提出があったときは、審査の上これを適当と認めた場合には学外貸出許可書（第4号様式）を交付する。ただし、重要文化財及びこれに準ずる資料については、別に定める資料等利用基準にもとづき、委員会を開いて決定しなければならない。

3 委員会は、管理上支障がある場合には、前項の許可を取消することができる。

(寄贈及び寄託)

第11条 資料室に資料等を寄贈又は寄託しようとする者は、その品目、点数及び寄託の場合はその期間等を寄贈・寄託申込書（第5号様式）に記入し、委員会に提出するものとする。

2 委員長は、前項の規定による寄贈又は寄託の申出があった場合には、委員会を開き、受け入れを決定したものについては、意見を付し理事会に進達しなければならない。

3 資料等の寄贈又は寄託を受けたときは、委員会は寄贈者又は寄託者に対して当該資料等の目録を交付するものとする。

4 寄贈者に対しては、感謝状を贈呈する。

5 寄託を受けた資料等については、万全の注意をもって保管しなければならない。

(観覧者及び資料等利用者の義務)

第12条 観覧者及び資料等利用者は、施設及び資料等を毀損し又は滅失したときは、直ちに委員会に届け出てその指示に従わなければならない。

2 前項の損害に対しては、観覧者又は資料等利用者は損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除、若しくは軽減することができる。
(事務の所管)

第13条 資料室に関する事務は、文学部事務室が掌る。

附 則

1 この規程は、昭和50年10月1日から施行する。

2 昭和46年4月1日施行の関西大学考古学等資料室運営委員会規程は、これを廃止する。

関西大学考古学等資料室管理運営委員会委員

任期 (54年4月1日より)
(56年3月31日まで)

委員の選出区分	役職または所属・身分	氏 名
役 職 上 の 委 員	教 学 部 長	東 井 正 美
	文 学 部 長	藤 井 啓 行
	大 学 院 部 長	新 保 正 樹
	大 学 事 務 局 長	若 林 茂 信
	文 学 部 事 務 長	毛 尾 泰 三
	大 学 院 事 務 長	伊 勢 計 典
考古学関係の委員	文 ・ 教 授	○ 網 干 善 教
民俗学関係の委員	文 ・ 教 授	上 井 久 義
	文 ・ 教 授	◎ 横 田 健 一
歴史学関係の委員	文 ・ 教 授	有 坂 隆 道
	文 ・ 教 授	藺 田 香 融
各学部から選出された委員	法 ・ 教 授	奥 村 郁 三
	文 ・ 教 授	柏 木 隆 夫
	経 済 ・ 教 授	津 川 正 幸
	商 ・ 助 教 授	岡 部 孝 好
	社 会 ・ 教 授	薄 田 桂
	工 ・ 教 授	亀 井 清
学 識 経 験 者	名 誉 教 授	末 永 雅 雄

◎委員長 ○副委員長

◇ 学外資料利用状況

- 54.4 石枕 1点 (伝天理市柳本町出土)
 ・千葉県立房総風土記の丘へ
 ・講談社『日本の原始美術』掲載
- 54.9 須恵長頸壺, 勾玉, 管玉など13点 (島根県飯ノ山横穴出土)
 島根県立風土記の丘へ
- 54.9 弥生土器 5点
 大阪府羽曳野市 羽曳野市史掲載
- 54.9 乾漆棺残欠片19点 (牽牛子塚古墳出土)
 奈良国立文化財研究所 飛鳥資料館へ
- 55.1 玦状耳飾 4点 (藤井寺市国府遺跡出土)
 筑摩書房「年表日本歴史」掲載
- 55.1 平形銅剣 1点
 銅剣片 2点
 九州歴史資料館へ

◇ 閲覧人員

年度	51	52	53	54
人数	307	300	243	372

◇ 資料所蔵点数

昭和54年	取得価格
4,820点	15,040,650円

(関西大学固定資産対象のもの)

註. 同一種類のものは数千点でも一括1点と査定しているものである。

* 編集後記

考古学等資料室が昭和49年現在の大学院学舎(岩崎記念館)4階へ移転し数年を経過した。この間、資料整理、資料の確認など基礎的業務を行ない、規程の制定、所蔵資料の学内閲覧へとこぎつけた。

資料室規程の目的にそい、「甲骨文字資料の解説紹介」「瓦経の復元考察」「金石文拓本資料」「古銭資料」等の資料紹介を学術誌へ行ない、また、図鑑などを発行してきたが、ここによりよく資料室彙報を創刊する運びとなり『阡陵』と名づけられた。由来解説にもあるとおり、この名をけがさぬよう日夜研鑽し、価値ある資料室彙報としたい。

「創刊のことば」と「資料室概要」について横田、網干両先生の玉稿をいただいた。本山コレクションの主軸をなしている神田孝平翁と本山彦一翁の略歴を紹介したが、業績、生い立ち等については次号より始めたい。所蔵資料の出土調査を毎年実施してきたが、昭和54年は青森、岩手両県の遺跡調査を行ない多大の成果を挙げた。案内して下さった関係者に厚くお礼申し上げる。今後は資料紹介を中心に、資料室全般の動向も載せたい。

『阡陵』の題字は、副委員長網干善教先生に揮毫いただいた。発刊するにあたり多くの関係者の指導助言を得た。ここに改めて感謝の意を表します。
 (角田芳昭)